



第百五十九號

(第十四卷)

昭和九年六月

“天文學名詞を見る”

民國教育部から近頃“天文學名詞”といふ一書が出た。之れは支那に於けるモダン天文學の術語集であるが、序文を讀んで見ると、此の事は民國十九年(1930)から譯名委員會なるものを組織し、12人の最高權威者が研究合議の結果として、今1934年一月初版を發行したものであるといふ。内容は

- I. 天文學名詞 (第1—58頁) 英獨佛日支の5國語が英語のABC順に便利よく并べてあつて、總計1324語。
- II. 星座錄 (第59—62頁) 90個の星座名だけを取り出し、羅英佛獨支の各國語を并べたもの。
- III. 西文索引 (第63—85頁) 英獨佛の天文語をABC順に并べ、頁數や語順の索引としたものであるが、星座の原名であるラテン語が入つてゐない。
- IV. 中文索引 (第86—101頁) 先づ始め二頁の“檢字表”があり、それから「二畫」乃至「二十五畫」の頭字の順に索引がある。

大きさも、配列も甚だ氣のきいたもので、近代の支那學術界に於ける傑作の一たるを失はない。

吾々日本人も、一般にやはり漢字を用ゐてゐる限り、何と言つても、一應、民國の人々の用語法を學び、之れを特に尊敬しなければならないのは言ふまでもないことである。此の點に於いて、本書が吾人に教ふる所は極めて多い。我が日本に於いて未だ之れ程に權威的に纏つた術語集が出来てゐないのは、甚だ遺憾であるが、それにも拘らず、第1部に“日名”なる欄を置いて、現在我國に用ゐられてゐる諸語を記してゐるのは、くすぐつたい氣持ちがする。その中に、(却つて我が國人の或る者がするやうに)東京方面の一部の人が用ゐる術語のみを採ることなく、むしろ多くを我が東亞天文協會の用語から採つてゐるのは嬉しい。

通覽して、日本と中國とが全く別な譯語を用ゐてゐる例が少くないのは、何とか互ひに改めなければならないと考へさせられる。思ふに日支の關係は、恰も英米の關係の如く、同文同種の間柄なのだから、今のうちに協定して、術語などを成るべく共通にして置くことは、利のみあつて、損の無いこと必然だからである。

詳しい批評は別稿にゆづる(7)